

# 平成24年度 特別養護老人ホーム虹ヶ丘 事業報告書

## 1 総括

今年度は「誰の為の、何の為の、ユニットケア？」を常に問いかけながら、個別ケアへの充実の為の取り組みが各ユニットで進められた。今年度は新施設準備の関係で職員数が増加したこともあり、各会議により入居者の状態変化に合わせたケアを相談し支援できた。

研修計画では、定着している感染症対策やリスクマネジメント等の専門技術向上のための勉強会の他に、新しく褥瘡予防対策委員会を立ち上げ、褥瘡予防対策の指針を作成、それに基づく活動を始めた。また、施設内でインターネットによる認知症テレビセミナーの受講の機会ももて、認知症への理解をより深める事が出来た。

また外部からの研修や体験学習、更にボランティアをより多く受け入れることで、地域に開かれた施設となり、高齢者介護への理解を求めることもできた。

## 2 入退居状況

今年度は12名の退居があった(前年度10名)。4月・9月・1月のみ退居者がいない状況で、6月・2月・3月には各2名の退居があった。1月には特例入所を受け入れるも、入居間もなく体調悪化にて退居とされた。また転院による退居が3名あった。いずれも嚥下障害による経管栄養への対応が困難との結論に至り、退居となった。

また、施設で看取りをさせて頂いた方も3名あった。1名はターミナルケアの中、入院中に思いがけず亡くなられたが、いずれの方にも家族様と何度もカンファレンスを重ね、ご意向を汲みながらお見送りさせて頂いたと感じている。

### 《月別入退居状況》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居者数	1	1	1	2	0	1	0	2	0	2	0	2	12
退居者数	0	1	2	1	1	0	1	1	1	0	2	2	12
退居理由		死亡	※	死亡	死亡		転院	死亡	死亡		死亡	※	
月末在籍者数	50	50	49	50	49	50	49	50	49	51	49	49	
男性	6	6	5	5	5	5	4	5	5	7	7	6	
女性	44	44	44	45	44	45	45	45	44	44	42	43	

※ 死亡・転院

## 3 入居者状況

今年度の平均介護度は4.06(昨年度の4.24、一昨年度の4.37)。要介護度の分布をみるとⅣとⅤで全体の73.5%(昨年度81.6%、一昨年度85.7%)で、全体的に介護度が下る傾向にある。

面会延件数は1376件。昨年度の1906件より減少した。これは、頻回に家族が面会に来られる方が亡くなられたことに要因があると思われるが、他にもほぼ毎日面会に来られる家族もあり、入居者についての相談や情報伝達の機会も多く、施設と家族と一緒に入居者の生活を支えるという事でも大きな意味がある。

入居期間割合では、全体の22.4%が1年未満であり、昨年度入居者の入れ替わりが進んでいるといえる。介護保険(平成12年4月)以前からの入居者は4名を数える。

### (1) 介護度別在籍者数

介護度別	男性	女性	入居者数	構成比
要支援1	0	0	0	0.0%
要支援2	0	0	0	0.0%
要介護Ⅰ	0	1	1	2.0%
要介護Ⅱ	0	3	3	6.1%
要介護Ⅲ	0	9	9	18.4%
要介護Ⅳ	2	13	15	30.6%
要介護Ⅴ	4	17	21	42.9%
合計	6	43	49	100.0%
平均要介護度	4.67	3.98	4.06	

### (2) 面会状況

月別	延件数	1日平均
4月	140	4.7
5月	135	4.4
6月	135	4.5
7月	101	3.3
8月	134	4.3
9月	104	3.5
10月	114	3.7
11月	97	3.2
12月	128	4.1
1月	126	4.1
2月	82	2.9
3月	80	2.6
合計	1376	3.8

### (3) 年齢別状況

年齢	男性	女性	合計
-59	0	1	1
60-64	0	0	0
65-69	0	0	0
70-74	0	3	3
75-79	0	0	0
80-84	3	10	13
85-89	2	9	11
90-94	0	10	10
95-99	1	8	9
100-	0	2	2
合計	6	43	49
平均年齢	87.5	87.8	87.6
最高年齢	96	101	

最低年齡	84	64	
------	----	----	--

(4) 出身地別

市町別	男性	女性	合計
与謝野町	6	36	42
伊根町	0	2	2
宮津市	0	4	4
京丹後市	0	1	1
合計	6	43	49

(5) 入居期間割合

入居期間	人数	割合
10年以上	5	10.2%
5年以上～10年未満	13	26.5%
3年以上～5年未満	9	18.4%
1年以上～3年未満	11	22.4%
1年未満	11	22.4%
合計	49	100.0%

4 入居者の健康状況

入院者数は昨年度と同じ20名だが、入院延日数は昨年度の617日から513日と減少した。また、通院者数は52名から38名、通院延日数は140日から113日と減少している。

入院については、昨年度に比べて循環器・脳疾患・皮膚疾患での入院もあった。

通院では、内科、精神科、眼科の順で定期受診がほとんどである。

感染症については、インフルエンザ、ノロウイルスの集団発症はなかった。

(1) 利用者の診察状況

診察別	施設内診療所 における診療	他の医療機関における診療			
		入院		通院	
	実人員	実人員	延日数	実人員	延日数
内科系疾患	59	12	371	15	29
外科系疾患	0	2	27	1	1
精神科系疾患	0	0	0	9	55
婦人科系疾患	0	0	0	2	3
眼科系疾患	0	0	0	4	6
耳鼻科系疾患	0	0	0	2	3
皮膚科系疾患	5	1	6	1	5
泌尿器科系疾患	0	1	29	2	2
整形外科系疾患	0	1	31	2	9
歯科系疾患	11	0	0	0	0
循環器系疾患	0	1	14	0	0
脳外科系疾患	0	2	35	0	0
合計	75	20	513	38	113

(3) 嘱託医来診状況

診療所別	来診実日数	1ヶ月当りの平均日数
宮津市由良診療所	26	2
伊藤内科医院	26	2

(2) 健康管理状況

内容	実施日(月)	利用者(特養)	利用者(ケア)	職員
血液検査	5月	47	12	116
	11月			104
尿検査	5月			112
	11月			98
心電図検査	5月	47	12	93
	11月			76
胸部レントゲン検査	5月	47	12	112
	11月			6
インフルエンザ予防接種	11月	49	12	69
	12月			51

(4) 疾患別状況

項目	人数	項目	人数
脳血管障害	24	痔核症	1
認知症	46	便秘症	44
心疾患	18	気管支喘息	3
高血圧症	16	白内障	8
貧血	4	胃がん	0
糖尿病	7	胃潰瘍	2
骨粗しょう症	6	腎機能障害	0
逆流性食道炎	5	精神疾患	14
腸閉塞	1	後縦靭帯骨化症	0
褥創	4	皮膚疾患	5
肝炎	3	膝関節症	9
脳腫瘍	3	パーキンソン	9

(5) 年齢構成別荷重平均栄養価 (年間所要量・摂取量)

栄養項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 摂取	所要量	単位
エネルギー	1429	1433	1433	1433	1440	1450	1440	1432	1427	1428	1420	1427	1433	1530	kcal
たんぱく質	54.9	54.2	53.7	54.0	54.1	54.8	53.0	53.4	53.3	52.8	52.6	52.9	53.6	52	g
脂質	32.9	33.2	34.3	33.1	33.8	33.6	33.6	33.9	33.2	31.8	31.6	31.7	33.1	37	g
カルシウム	445	440	427	433	432	431	438	458	437	424	458	439	439	620	mg
鉄	7.8	8.1	7.1	7.7	7.4	7.8	7.4	8.2	7.0	7.5	8.0	7.8	7.7	6.2	mg
レチノール当量	546	526	509	541	533	502	573	532	579	582	561	555	545	679	μgRE
ビタミンB1	0.63	0.65	0.65	0.64	0.65	0.64	0.63	0.63	0.64	0.62	0.65	0.62	0.64	0.96	mg
ビタミンB2	0.81	0.78	0.81	0.83	0.83	0.81	0.80	0.80	0.80	0.77	0.79	0.77	0.80	1.06	mg
ビタミンC	74	73	73	77	72	79	79	72	78	75	76	73	75	100	mg
食塩	8.3	8.5	8.2	8.2	8.4	8.4	8.2	8.1	8.2	8.5	8.2	8.6	8.3	8.3	g
穀類エネルギー比	49.5	49.5	49.7	50.2	49.5	49.5	49.3	49.4	49.9	49.6	50.5	50.0	49.7	49.6	%
動物性たんぱく質比	47.9	47.3	47.2	47.7	48.6	48.5	45.8	46.2	46.0	45.6	43.6	42.3	46.4	47.2	%
脂質エネルギー比	20.6	20.9	21.5	20.9	21.1	20.9	21.0	21.2	20.9	20.1	20.1	19.9	20.8	20.9	%

※ 食事摂取基準に基づき施設にあわせた所要量を算出

## 5 サービス状況

今年度は、医療的ケア、ターミナルケア、入院が長引いている方や感染症罹患者の方への対応など、職員間連携をとり支援に努めた。入居者の家族とも積極的に話す機会をもち、悩みや不安を受け止めた対応を心がけた。また、『虹の会』の取り組みでユニットを越えた入居者同士の交流を図ることが出来た。

更に、平成23年度から始めた職員のマナーチェックを継続しており、『入居者に対する尊厳』をより意識したサービス提供出来るよう毎日自分自身を振り返る機会を設けている。

食事面において、『ユニット内調理』を年度末にようやく再開できた。『温かいものを温かいうちに食べれるよう』職種間連携して各ユニットでユニット内調理を目指して次年度も取り組む。

## (1) 行事

月/日	行 事 名	参加者数	月/日	行 事 名	参加者数
4/11	喫茶	25	10/12	虹の会(鳴滝公園ドライブ)	4
4/15	虹の会(花見:鳴滝公園)	4	10/13	東2お食事会	16
4/25	喫茶	25	10/22	虹の会(絵手紙)	5
4/26	ふれあい(伊根 青島歌謡会)	20	10/23	運動会	30
4/27	岩屋小チューリップふれあい交流会	20	10/24	喫茶	25
5/23	喫茶	25	11/11	岩屋小学校学習発表会見学	3
6/3	ピアノ発表会(岩滝 吉岡先生)	20	11/14	喫茶	25
6/13	喫茶	25	19~23	文化祭	50
6/27	喫茶	25	11/20	ふれあい(伊根 さくらの会)	20
6/28	虹の会(紫陽花見学)	5	11/21	お茶会	20
7/4	ふれあい(野田川歌唱研究会)	30	11/24	鑑賞会(白帆会)	25
7/11	喫茶	25	11/26	岩屋小チューリップふれあい交流会	20
7/14	ふれあい(辻阪先生ピアノ)	30	12/4	虹の会(クリスマスツリー飾り付け)	7
7/19	DVD鑑賞	14	12/13	忘年会	40
7/25	虹の会(そうめん流し)	15	12/19	虹の会&喫茶(そばうち)	25
7/29	虹の会(岩屋夏祭り花火見学)	5	12/21	東1クリスマス会	10
8/4	芝井先生ピアノ発表会	20	12/24	西2・東2クリスマス会	32
8/8	喫茶	25	12/25	西3クリスマス会	12
8/9	芝井先生ピアノ発表会	20	12/28	餅つき	25
8/11	夏祭り	40	1/1	初詣	5
8/13	虹の会(お盆供養の会)	14	1/16	喫茶	25
8/22	喫茶	25	1/23	虹の会(卓球バレー)	10
8/27	ふれあい(グリーンエコー)	30	1/30	ふれあい(野田川歌唱研究会)	30
8/29	虹の会(体操)	15	2/3	豆まき	30
8/31	虹の会(お団子作り)	12	2/13	喫茶	25
9/12	敬老祝賀式	40	2/14	喫茶	25
9/19	虹の会(ちりめん歴史館)	2	2/20	石川小体験学習・ふれあい	20
9/28	与謝野町敬老会	5	2/25	虹の会(DVD鑑賞)	5
10/3	ふれあい(野田川歌唱研究会)	30	2/27	喫茶	25
10/10	喫茶	25	3/4	ふれあい(グリーンエコー)	30
			3/7	与謝小ふれあい	20
			3/27	喫茶	25

## (2) クラブ活動

月別	習字	10月	4
4月	3	11月	5
5月	4	12月	4
6月	4	1月	3
7月	4	2月	なし
8月	4	3月	3
9月	なし	合計	38

### (3) ボランティア受入れ状況

さまざまな地域のボランティアの方の支えで入居者の生活に潤いと楽しみがもて、笑顔を見せて頂く機会が増えた。

受入月	グループ名	参加者数	内 容	受入月	グループ名	参加者数	内 容
4月	個人ボラ	2	習字	9月	個人ボラ	1	清掃
	伊根青島歌謡会	5	カラオケ	10月	個人ボラ	2	習字
5月	天理教ボランティア	10	車椅子掃除		天理教ボランティア	10	車椅子掃除
	個人ボラ	2	習字	野田川歌唱研究会	15	歌	
6月	天理教ボランティア	10	車椅子掃除	11月	個人ボラ	1	清掃
	個人ボラ	10	ピアノ発表会		個人ボラ	2	習字
	個人ボラ	2	習字		梅林時	12	掃除
	個人ボラ	1	清掃		天理教ボランティア	10	車椅子掃除
7月	天理教ボランティア	10	車椅子掃除	コスモス会	6	掃除	
	つつじ会	10	窓ふき	伊根さくらの会	5	琴	
	個人ボラ	2	習字	白帆会	4	南京玉すだれ	
	個人ボラ	1	雑務	12月	天理教ボランティア	10	車椅子掃除
	個人ボラ	2	ピアノ		個人ボラ	2	習字
	野田川歌唱研究会	15	歌		個人ボラ	1	清掃
8月	天理教ボランティア	10	夏祭り	赤かぶ	4	餅つき補助	
	着付けボラ	4	着付け	1月	個人ボラ	2	習字
	個人ボラ (学生)	4	夏祭り		野田川歌唱研究会	15	歌
	個人ボラ	2	習字	2月	天理教ボランティア	10	車椅子掃除
	個人ボラ	8	ピアノ		個人ボラ	1	清掃
	個人ボラ	8	ピアノ		個人ボラ	1	雑務
	個人ボラ	1	清掃		個人ボラ	2	習字
	グリーンエコー	4	歌&紙芝居		個人ボラ	1	雑務
個人ボラ	2	習字	3月		グリーンエコー	4	歌&紙芝居
				天理教ボランティア	10	車椅子掃除	

### 6 体験学習・研修受け入れ

月	内 容	期間 (日数)	実人数
5	ミストラルヘルパー研修	18	2
8	暁星高校ヘルパー研修	5	1
8	暁星高校体験学習	3	1
9	江陽中学校体験学習	4	40
9~10	与謝野町社協ヘルパー研修	4	7
9	府立医大学生研修	1	2
10	府新採用職員研修	1	4
10~11	府ユニットリーダー研修	5	1
11	次世代の担い手育成事業 加悦中1年生	1	6
2	石川小学校6年生ふれあい体験学習	1	25
2~3	介護職員基礎研修施設実習	10	2
3	与謝小4年生ふれあい体験学習	1	4

社会人・学生の研修や体験学習の受け入れにより、幅広く高齢者介護に対する理解を深めることが出来たとともに、職員自身も自分の介護の仕方や考え方を振り返る良い機会となった。

## 7 職員の研修参加

### (1) 内部研修

#### ①新人職員研修

採用1年未満の職員5名を対象に、法人理念・施設のコンセプトやコンプライアンスルールをはじめ、リスク管理や感染症対策など組織人として求められる知識や姿勢について2日間の研修を行った。

#### ②各種勉強会

コンプライアンス研修は恒例となった。この仕事をする上で必要な一人ひとりの行動規範を毎年確認することができる絶好の機会となっている。またユニットin北京都主催の講演会が多く、日々の支援に活かすヒントがあったり、自分自身を振り返る機会となったが、受講者が全体的に少なく片寄りもあったことは残念なことである。

また、昨年度に終了した医療的ケア14時間研修のフォローアップ研修を行い、手技等の再確認を行った。

月別	内 容	講 師	実人数	日 数
4	施設内虐待とコンプライアンスルール①②	施設長	31	2
	リハビリ勉強会(基本介護技術Ⅰ)初級編	神内PT	6	1
	リハビリ勉強会(ケース検討)	神内PT	7	1
5	普通救命講習会Ⅰ①②	宮津与謝消防組合	11	2
	施設内虐待とコンプライアンスルール③	施設長	22	1
	第1回TV会議システムを活用した認知症セミナー	成本迅氏	5	1
	リハビリ勉強会(基本介護技術Ⅱ)	神内PT	6	1
6	リハビリ勉強会(ケース検討)	神内PT	15	2
	医療的ケアフォローアップ研修	看護師	11	1
	第1回感染症勉強会	感染症委員	16	2
	認知症勉強会	キャラバンメイト委員	11	1
	普通救命講習会Ⅰ③	宮津与謝消防組合	8	1
7	第1回リスクマネジメント勉強会①	リスクマネジメント委員	20	1
	医療的ケアフォローアップ研修	看護師	12	1
	リハビリ勉強会(ケース検討)	神内PT	5	1
	リハビリ勉強会(シーティングと床面からの起上り介助法について)	神内PT	13	1
	第2回TV会議システムを活用した認知症セミナー	成本迅氏・西邑章氏	3	1
	排泄勉強会	オムツフィッター3級取得者職員	14	1
8	ユニットin北京都 全体研修会	桑原教彰氏	4	1
	リハビリ勉強会(ケース検討)	神内PT	9	1
	褥瘡予防対策委員会指針発表・褥瘡予防について講義	褥瘡予防対策委員・神内PT	21	1
	医療的ケア研修会	看護師	12	1
	入浴リフトリーダー養成研修	ミクニ	5	1
	第1回リスクマネジメント勉強会②	リスクマネジメント委員	23	1
9	ユニットin北京都 全体研修会	西川勝氏	5	1
	リハビリ勉強会(基本介護技術)	神内PT	8	1
	リハビリ勉強会(腰痛予防勉強会)	神内PT・看護師	23	1
	第3回TV会議システムを活用した認知症セミナー	宮裕昭氏	8	1
	排泄勉強会	オムツフィッター3級取得者職員	9	1
	入浴リフト実践講習会	入浴リフトリーダー職員	35	12
	陽信孝先生特別講演会	陽信孝氏	26	1

10	リハビリ勉強会(腰痛予防勉強会)	神内PT	16	1
	リハビリ勉強会(ケース検討)	神内PT	2	1
	入浴リフトフォロー研修	入浴リフトリーダー職員	35	13
	ユニットin北京都 全体研修会	浜田寿美男氏	11	1
11	ユニットin北京都 全体研修会	春日キスヨ氏	5	1
	リハビリ勉強会(ケース検討)	神内PT	7	1
	ターミナル勉強会(陽信孝氏講演会ビデオ鑑賞会)		24	3
	第4回TV会議システムを活用した認知症セミナー	成本迅氏	5	1
	リハビリ勉強会(摂食・嚥下勉強会)	神内PT	8	1
12	リハビリ勉強会(ケース検討)	神内PT	14	2
	第2回感染症勉強会①	感染症委員	6	1
1	リハビリ勉強会(モジュール型車椅子について)	神内PT	12	1
	リハビリ勉強会(ケース検討)	神内PT	5	1
	和田行男氏講演会DVD視聴会		16	2
	第5回TV会議システムを活用した認知症セミナー	成本迅氏・西邑章氏	1	1
2	リハビリ勉強会(ケース検討)	神内PT	6	1
	ユニットin北京都 全体研修会	武田和典氏	9	1
	第2回リスクマネジメント勉強会	リスクマネジメント委員	47	2
3	第6回テレビシステムを活用した認知症セミナー	成本迅氏・井上具美子氏	0	1
	リハビリ勉強会(高齢者の骨折・関節症について)	神内PT	14	1
			647	83

## (2) 派遣研修

今年度もユニットin北京都では、部門毎(介護・看護・ケアマネ・調理)ともに定期会議を持ち、施設間で情報交換し課題への取り組みが進められた。

また食と手当と看取り勉強会の他、トランスファー介護術や排泄ケア、摂食ケア等の研修にも参加しケアの知識を深めることが出来た。更に、喀痰吸引等京都府研修(第2号)に参加し、2名の職員が研修を修了した。

研 修 名	主催	実人数	日 数
特養における医療的ケアに係る介護職員研修	市老協	1	1
むつき庵オムツフィッター3級研修	(株)はいせつ総合研究所むつき庵	3	2
栄養士研修会	丹後保健所管内栄養士研究会	2	2
府老協総会 施設長研修会	府老協	2	2
思い出つくりVTR制作説明会	ユニットIN北京都	1	1
介護保険サービス事業者等集団指導	京都府	1	1
障害福祉サービス事業者集団指導	京都府	1	1
ワンランク上の施設ケアマネ実務	(株)日総研出版	1	1
特養におけるリハビリテーションの重要性	京都府	1	1
摂食・嚥下障害を基礎から学ぶ	京都府リハビリテーション支援センター	1	1
甲種防火管理新規講習	宮津与謝消防組合	1	2
民間社会福祉施設施設長研修会	京都府	1	1
食べる機能の障害と摂食アプローチについて	丹後保健所	2	1
近畿老人福祉施設研究協議会奈良大会	近老協	1	2
特定給食施設従事者講習会	丹後保健所	1	1
特養をよくなる特養の会 第6回定例学習会	特養をよくなる特養の会	1	1
特養をよくなる特養の会 第二回定期総会&記念講演会	特養をよくなる特養の会	1	1



食と手当てと看取りの会	食と手当てと看取りの会実行委員会	2	2
障害者虐待防止権利擁護研修	京都府	1	1
安全運転管理者講習	府公安委員会	1	1
施設介護支援専門員研修会	日本介護支援専門員協会	1	1
栄養士ネットワーク推進	丹後保健所	1	1
認知症ケアネットワーク研修	丹後保健所	2	1
喀痰吸引研修 指導看護師へのオリエンテーション	京都府看護協会	1	1
口から食べるを支えよう～のみこみやすい食事とは	丹後地域リハビリテーション支援センター	3	1
京都介護支援専門員協会 丹後ブロック研修会	京都府介護支援専門員協会	2	1
「口から食べるを支えよう」摂食嚥下の評価と訓練	丹後地域リハビリテーション支援センター	2	1
福祉職場研修担当者研修	府社協	1	1
ライフリー排泄ケアフォーラム	ユニチャーム(株)	2	1
認知症キャラバンメイトスキルアップ研修	京都府	1	1
マネジメント層のスキル向上研修「コーチング基礎編」	きょうと介護・福祉ジョブネット	2	1
介護職員等喀痰吸引等京都府研修(第2号)	京都府	3	18

## 8 事故状況（受診となった事案）

事故報告の総件数は1406件（前年度965件）、ヒヤリハット338件（同521件）であった。事故の内、外傷なしで状態観察のみが845件（同586件）、何らかの外傷はあるが処置不要または施設内での簡単な処置のみ561件（同372件）、受診が8件（同7件）であった。

受診の内容は骨折が2件、創傷・打撲が5件、薬誤配が1件であった。受診のうち2件は入院となっており、いずれも転倒による骨折であった。薬の誤配という明らかな職員の不注意によるもので受診に至った。幸い大事に至らなかったが、二度と起こさない様全体で服薬時の確認を意識していきたい。

前年度より報告件数は大幅に増えており、繰り返し起こる原因不明の皮膚トラブルの報告が大半を占めている。介助方法や皮膚を保護するものの工夫を重ねているものの防げないという現状である。いずれにしても職員の身体の状態観察を行う意識が高まって来ているのは事実であり、それが報告件数に現れている。

引き続き「防げる事故」を確実に防ぐことができるように対策を講じる必要がある。

項目	特養	ケア	ショート	デイ	小規模	合計
転倒及び転落			3	2		5
介助中の事故	1				1	2
誤嚥（誤飲）						0
異食						0
薬の誤配			1			1
入居者同士のトラブル						0
無断外出						0
自動車事故						0
その他						0
合計	1	0	4	2	1	8

## 9 満足度アンケート

### 配布数と回収率

	配布数	回答数	回収率	昨年度回収率
特 養	50	37	74.0%	54.0%
在 宅	220	93	42.3%	37.5%
合 計	270	130	48.1%	40.6%

### 苦情解決の仕組みをご存知ですか

	はい	いいえ	無回答	合計
特 養	27	6	4	37
在 宅	43	41	9	93
合 計	70	47	13	130
構成比	53.8%	36.2%	10.0%	
前回の構成比	44.4%	44.4%	11.1%	

### サービスごとの満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答	合計
特 養	30	5	1	0	1	37
在 宅	72	16	0	0	5	93
合 計	102	21	1	0	6	130
回答構成率	78.5%	16.2%	0.8%	0.0%	4.6%	
昨年度構成率	76.9%	18.5%	3.7%	0.0%	0.9%	

# 平成24年度 ケアハウス虹ヶ丘 事業報告書

## 1 総括

24年度は、例年1件か2件程度の入退居数に比べ、入れ替わりの多い年となった。年度初めと年度末にはケアハウスで対応可能な要介護状態を大きく超えておられたため、ご家族の協力と訪問系サービスを駆使しながら24時間対応型施設の空ののを待ち、ようやく入居にこぎつけた方が3名おられた。他施設に転居された後は、穏やかに尊厳ある暮らしをされているという情報もあり、ケアハウスがいかに軽度者の受入れしか想定されていない施設であるか、改めて感じさせられる経験となった。

数年前に比べると、要介護状態の進行に伴って、ケアハウスでの生活の限界点を見極め、生活の様子や今後の方針を、ご家族や担当ケアマネジャーと共有できるように、適時相談の機会を確保するようにはなってきた。しかし、高齢者施設に入居する高齢者の多くは、変化への対応力の低下から、施設の介護機能とのギャップが生じた後も、現状の生活環境の継続を望まれる傾向にあるため、終身施設になりえないケアハウスにとって、次の入所系施設へのバトンタッチの時期を逸している感否めない。周辺の24時間対応型施設の整備状況も見据えながら、ご本人やご家族とケアハウスの生活が最も有効な範囲がどの辺りなのかを見出せるよう今後も相談を続けていきたい。

ケアハウスで生活される入居者には、自助・互助の精神をもって、できるだけ長く、円満で豊かな生活を継続していただきたいと考えているが、日常生活動作（ADL）の格差の問題、認知症の発症、生活習慣・文化の違い等、他の入居者と距離をおかれたり、時によっては諍いがあることも残念ながら珍しくない。そうしたネガティブな日常のシーンをできるだけ解消するため、これまでもさまざまな手立てを考えてきたが、今年度の取り組みとしては、他者から感謝される役割を演出することで、他人にも優しい気持ちで接していただけるようにならないかと、幾つか個別の過ごし方を提案してみた。

一つは、地元のリネン屋からは廃シーツを、また地元で機織りを営む数名の方からは余った糸を分けていただき、手先が器用な入居者に紅白玉作りをお願いし、多くの小学校に寄贈することができた。そのお礼として、児童が作ったプレゼントや写真をいただき、新聞にもその取組が紹介される等、自己肯定感につながる支援ができたのではないかと感じた。その他にも、併設特養ユニットへのお手伝いや、新聞たたみやお絞り巻、雑巾縫い等、単なる作業で終わるのではなく、その行為がどういう形で役に立っているのかを意識していただきやすいような演出を心がけた。そうした取り組みの結果が、どの程度豊かな生活の底上げに貢献しているか具体的な実感はまだないが、次年度は地域とのつながりをさらに強固なものにすることで、閉塞感を打破して、活気あるケアハウスを目指したい。

: 人

月別	入所者数	退所者数	退所理由	月末在籍者数	男性	女性
4月	0	0		14	7	7
5月	0	1	老健入所	13	7	6
6月	0	0		13	7	6
7月	1	0		14	7	7
8月	0	0		14	7	7
9月	0	1	サービス付高齢者向け住宅入居	13	6	7
10月	0	0		13	6	7
11月	0	0		13	6	7
12月	0	0		13	6	7
1月	0	0		13	6	7
2月	1	1	特養入居	13	6	7
3月	1	1	グループホーム入居	13	6	7
合計	3	4		13.3		

### 3 入居者状況

#### (1) 年齢別構成

年 齢	男 性	女 性	合 計
65-69	0	0	0
70-74	0	0	0
75-79	4	0	4
80-84	1	0	1
85-89	1	6	7
90-94	0	1	1
95-99	0	0	0
合 計	6	7	13
平均年齢	81.3	85.2	83.5
最高年齢	85	92	
最低年齢	75	85	

#### (2) 出身地別状況

出身地	男 性	女 性	合 計
与謝野町	3	3	6
伊根町	0	0	0
宮津市	1	2	3
その他	2	2	4
合 計	6	7	13

### 4 身体状況

#### (1) 要介護度別

平均 1.1

介護度	男 性	女 性	合 計	構成比
認定無し	0	0	0	0.0%
要支援1	1	1	2	15.4%
要支援2	2	3	5	38.5%
要介護Ⅰ	2	2	4	30.8%
要介護Ⅱ	1	1	2	15.4%
要介護Ⅲ	0	0	0	0.0%
要介護Ⅳ	0	0	0	0.0%
要介護Ⅴ	0	0	0	0.0%
合 計	6	7	13	100%

#### (2) 在宅サービス利用状況

##### 介護サービス

利用種別	実人員	対入居者割合	備 考
訪問介護	6	46.2%	
訪問看護	1	7.7%	
短期入所	0	0.0%	
通所介護	1	7.7%	
通所リハ	0	0.0%	

##### 介護予防サービス

利用種別	実人員	対入居者割合	備 考
訪問介護	4	30.8%	
訪問看護	1	7.7%	
短期入所	0	0.0%	
通所介護	0	0.0%	
通所リハ	0	0.0%	

## 5 行事等の実施状況

### (1) 行事

月別	行事名
4月	花見、買い物、食事会 外食
5月	苗植え、買い物、食事会 外食
6月	買い物、食事会 外食
7月	夏祭り、買い物、食事会 外食
8月	買い物、食事会 外食
9月	敬老祝賀会、買い物、食事会 外食
10月	買い物、食事会 外食
11月	文化祭 買い物、食事会 外食
12月	餅つき、買い物、食事会 外食
1月	新年祝賀会、買い物、食事会 外食
2月	節分、買い物、食事会、外食 手品
3月	ひな祭り、買い物、食事会、外食

### (2) クラブ活動

月別	クラブ名
4月	誕生会
5月	誕生会 ドライブ
6月	誕生会 花見, 南京玉すだれ (松笠)
7月	誕生会 大正琴 (山崎)
8月	誕生会 腹話術 (寺村志津枝)
9月	誕生会 ドライブ 歌 (野田川歌唱研究会)
10月	誕生会
11月	誕生会 踊り (守本)
12月	忘年会 誕生会
1月	誕生会 手品 (浦野)
2月	誕生会 歌 (横浜)
3月	誕生会 大正琴 (山崎)

## 6 職員の研修参加

### (1) 内部研修

月別	内 容	講師	実人数	日数
5月	施設内虐待とコンプライアンスルール	施設長	1	1
6月	第1回感染症勉強会	感染症委員	1	1
6月	認知症勉強会	キャラバンメイト委員	1	1
9月	陽信孝先生特別講演会	陽信孝氏	1	1
11月	ユニットin北京都全体研修会	春日キスヨ氏	1	1
1月	和田行男氏講演会DVD視聴会		1	1
2月	ユニットin北京都全体研修会	武田和典氏	1	1
2月	第2回リスクマネジメント勉強会	リスクマネジメント委員	2	2

### (2) 派遣研修

研 修 名	主 催	実人数	日数
軽費・ケアハウス職員研修会	府老協	1	1
北部ブロック生活相談員研究会（軽費・養護）	府老協	2	2

## 平成24年度 虹ヶ丘短期入所生活介護事業所 事業報告書

### 1 総括

平成24年度は9割程度の稼働率がほぼ維持できた。しかし、予約時点では満床状態で調整が困難であったことにより、希望通りに予約ができず、利用日数を減らしていただいたり希望日を変更していただくことも少なからずあった。予約確定後のキャンセルは上半期は1月当たり10件程だったが、下半期には近隣に特養が開設されたことや冬季に入り体調不良者が増えたこと等によって、キャンセルが月15件程と増え、稼働率が低迷し9割を切ることも度々あった。

また平成24年度の新たな取り組みとして緊急時受入体制を導入し、緊急時用ベットを確保したことで、急な利用希望に対しスムーズに対応することができたように思われる。また、常時1床を確保しておかないといけないことにより、稼働率低下にもつながるかと思われたが、想定していたよりも緊急ベットの稼働があったため目に見えた減少はなかった。ただし、月間90名近いご利用者の中で一部の方にしか緊急利用していただけないことや、急な利用希望に対応しても最後の1床でないために加算が算定できないことも度々あり、今後、周辺の短期入所事業所数が増加する中で、在宅介護の限界点を上げる使命を果たしていくために、緊急時受入体制が有効であるのか今後検討していく必要性がある。

ショートステイ係内の取り組みとしては、前年度ほどできなかった外部研修に9件参加することができ、研修に参加した職員からの報告などにより、ケアの質の向上に一定つなげることができた。また、内部研修としても、ショートステイ会議の中でグループワークをするなどしてスキルアップできるような研修を取り入れた。今後も外部・内部研修に参加し、基本的な介護から実践的な部分までケアの質の向上に努めた上で、利用したい時に利用していただけるという、ご利用者とご家族のどちらにも満足していただけるショートステイを目指したい。

また、年度末近くになって職員の異動と職員数減により、余暇サービスの提供や個別の支援が十分にできなくなったため、次年度は、現体制の中で業務内容の見直しを検討し、レクレーションの充実と個別援助計画の充実を図っていきたい。

### 2 利用状況

#### (1) 町別利用状況

月	与謝野町	伊根町	宮津市	その他	合計	1日平均
4月	542	0	12	0	554	18.5
5月	546	0	14	0	560	18.1
6月	510	0	19	0	529	17.6
7月	510	0	22	0	532	17.2
8月	527	0	33	0	560	18.1
9月	522	0	32	0	554	18.5
10月	565	0	30	0	595	19.2
11月	512	0	24	0	536	17.9
12月	496	0	20	0	516	16.6
1月	507	0	15	0	522	16.8
2月	489	0	8	0	497	17.8
3月	519	0	11	0	530	17.1
合計	6,245	0	240	0	6,485	17.8

(2) 実人数・受入状況他

月	実人数				1日当り 利用開始 人数	1人当り 平均利用 日数
		介護	予防	障害		
4月	97	93	3	1	4.8	5.7
5月	95	92	2	1	4.5	5.9
6月	85	83	1	1	4.7	6.2
7月	86	83	2	1	4.9	6.2
8月	84	82	1	1	4.9	6.7
9月	80	78	1	1	5.0	6.9
10月	88	85	2	1	5.0	6.8
11月	90	88	1	1	4.8	6.0
12月	84	81	2	1	4.7	6.1
1月	84	80	3	1	4.6	6.2
2月	80	78	1	1	5.1	6.2
3月	88	86	1	1	5.9	6.0
平均	86.8	84.1	1.7	1.0	4.9	6.2

(3) 年齢別状況 3月度

年齢	男性	女性	合計
-64	2	1	3
65-69	2	0	2
70-74	3	3	6
75-79	1	2	3
80-84	6	5	11
85-89	3	18	21
90-94	2	22	24
95-99	1	12	13
100-	1	4	5
合計	21	67	88
平均年齢	80.3	89.3	87.2
最高年齢	100	101	
最低年齢	56	64	

(4) 出身地別状況 3月度

市町名	男性	女性	合計
与謝野町	20	66	86
伊根町	0	0	0
宮津市	1	1	2
その他	0	0	0
合計	21	67	88

(5) 要介護度別状況

介護・予防サービス3月度 平均 3.1

介護度	男性	女性	合計	構成比
要支援1	0	1	1	1%
要支援2	0	0	0	0.0%
要介護I	1	13	14	16.1%
要介護II	4	14	18	20.7%
要介護III	5	13	18	20.7%
要介護IV	4	12	16	18.4%
要介護V	6	14	20	23.0%
合計	20	67	87	100.0%

障害程度区分 3月度 平均 6.0

	男性	女性	合計	構成比
区分1	0	0	0	0.0%
区分2	0	0	0	0.0%
区分3	0	0	0	0.0%
区分4	0	0	0	0.0%
区分5	0	0	0	0.0%
区分6	1	0	1	100.0%
合計	1	0	1	100.0%



### 3 職員の研修参加

#### (1) 内部研修

月別	内 容	講 師	実人数	日 数
4	施設内虐待とコンプライアンスルール①②	施設長	8	2
	リハビリ勉強会(基本介護技術Ⅰ)初級編	神内PT	3	1
5	普通救命講習会Ⅰ①②	宮津与謝消防組合	3	1
	施設内虐待とコンプライアンスルー③	施設長	5	1
	第1回TV会議システムを活用した認知症セミナー	成本迅氏	3	1
	リハビリ勉強会(基本介護技術Ⅱ)	神内PT	4	1
6	リハビリ勉強会(ケース検討)	神内PT	1	1
	医療的ケアフォローアップ研修	看護師	4	1
	第1回感染症勉強会	感染症委員	1	1
	認知症勉強会	キャラバンメイト委員	6	1
	普通救命講習会Ⅰ③	宮津与謝消防組合	4	1
7	第1回リスクマネジメント勉強会①	リスクマネジメント委員	6	1
	医療的ケアフォローアップ研修	看護師	4	1
	リハビリ勉強会(シーティングと床面からの起上り介助法について)	神内PT	7	1
	第2回TV会議システムを活用した認知症セミナー	成本迅氏・西邑章氏	3	1
8	褥瘡予防対策委員会指針発表・褥瘡予防について講義	褥瘡予防対策委員・神内PT	7	1
	医療的ケア研修会	看護師	3	1
	第1回リスクマネジメント勉強会②	リスクマネジメント委員	3	1
9	リハビリ勉強会(基本介護技術)	神内PT	2	1
	第3回TV会議システムを活用した認知症セミナー	宮裕昭氏	2	1
	排泄勉強会	オムツフitter3級取得者職員	6	1
	陽信孝先生特別講演会	陽信孝氏	9	1
10	リハビリ勉強会(ケース検討)	神内PT	7	1
	ユニットin北京都 全体研修会	浜田寿美男氏	2	1
11	ユニットin北京都 全体研修会	春日キスヨ氏	1	1
	リハビリ勉強会(摂食・嚥下勉強会)	神内PT	5	1
12	第2回感染症勉強会①	感染症委員	2	1
1	リハビリ勉強会(モジュール型車椅子について)	神内PT	1	1
	和田行男氏講演会DVD視聴会		5	3
2	ユニットin北京都 全体研修会	武田和典氏	2	1
	第2回リスクマネジメント勉強会	リスクマネジメント委員	11	2
3	リハビリ勉強会(高齢者の骨折・関節症について)	神内PT	2	1

#### (2) 派遣研修

研 修 名	主 催	実人数	日 数
むつき庵オムツフitter3級研修	㈱はいせつ総合研究所むつき庵	2	2
摂食・嚥下障害を基礎から学ぶ	京都府リハビリテーション支援センター	1	1
感染予防対策基礎研修会	丹後保健所	1	1
認知症介護初任者研修	府老協	1	1
食べる機能の障害と摂食アプローチについて	丹後保健所	1	1
介護職員等喀痰吸引等京都府研修(第1号)	京都府	2	18
口から食べるを支えよう～のみこみやすい食事とは	丹後地域リハビリテーション支援センター	1	1
不在者投票事務に関する説明会	京都府選挙管理委員会	1	1
ショートステイ業務交流会	府老協	1	1

## 平成24年度 虹ヶ丘デイサービスセンター 事業報告書

### 1 総括

平成24年は介護報酬の改定により、前年度までとは異なる点がいくつかある。利用時間の一時間増加・個別機能訓練加算の変更・新たに24年度から口腔機能向上加算と予防対象に複数サービス実施加算（I-2）の実施等、それまでとは異なる点が多いため、単純に前年度以前の数値と比較することは困難である。

そうした報酬改定に留意した上で、24年度の稼働率は、20.9名/日と前年度の20.8名に比べてほとんど変化がなかった。しかし実人数は減少しており、近隣にデイサービス・特別養護老人ホームの相次ぐ開設があり、その影響は少なからずあった。また、週に2~4回ご利用して下さっていた方々が特養・老健等への入所、また長期入院される方も前年以上に多かった。

要介護度の分布状況は、前年度と比べて要介護2~4の中度層の利用者が減少した。理由の一つとしては、やはり近隣の新設特養への入所に伴う影響があると思われ、おそらく今後しばらくはこのあたりの介護度の方々の利用は大きくは伸びないと思われる。逆に予防給付のご利用者が増加した。23年度は12名だったのに対し、1年で7名増加している。3月は実人数97名に対して19名の予防であり、比率も伸びている。

4月から、口腔機能向上と運動器機能向上の計画を実施し、ご利用者から効果的だという意見を頂くと、それまでと比べて地域包括支援センターからの問い合わせ件数も増加し、比例して利用者も増加しており、長く在宅生活を続けていただけのためにも、予防給付の利用者は今後も積極的に受け入れていきたい。また、要介護5の利用者数は減っておらず、医療的ニーズの高い重度の方の施設入所の難しさは今後も想定され、設備環境に恵まれた当事業所へのニーズは、今後軽度と重度の二極化になっていく可能性が考えられる。

### 2 主な取り組み

平成24年度は介護報酬の改正に伴いサービス内容の変更を行った。まずは、機能訓練Ⅰについては、専従の看護師を配置できる日にはその看護師を中心に、前年度まではあまり行われていなかったような、個別・少人数での運動や体操を実施するようになった。また予防給付の方にも計画を立てて運動器機能向上訓練を実施。チューブやボール、平行棒を使用しての個別・少人数での運動や体操を実施するようになった。

しかし、施設の事情や体制上の問題があり、12月から訓練の実施が非常に困難となり、2月以降は廃止となった。ご利用者からの希望も多く、非常に残念であるが、介護職員でできる程度の運動や体操を実施できるように努めている。また、予防給付の運動器機能加算についても看護師の指導が不十分になっているが、介護職員でできる範囲のことを行っている。2月からはごく一部の方に個別機能訓練Ⅱを実施しているが、プログラム実施のために看護師の付き添いや指導ができにくいこともあり、介護職員が指導を受けながら一部担っているところもある。

また、24年度より、口腔機能向上計画を実施している。予防給付の方は全員、要介護の方は必要な方をピックアップして実施しており、人数も増加傾向にある。昼食前の口腔体操や食後の口腔ケアは、ご利用者の中でも定着してきており、引き続き実施していきたい。しかし機能訓練・運動器機能・口腔機能向上共に、看護師の負担が非常に多く、アセスメントやモニタリング・計画の立案等の作業も負担になっており、時世の流れやご利用者からは求められていることでも、今後どのように実施を続けていくかは課題である。

活動内容については、今年度は運動や体操系の体を動かす活動に力を入れた。先に述べた機能訓練や運動器機能向上加算の算定に伴ってではあるが、冬季以降は介護職員が担っているため、リハビリというよりはレクリハという捉え方で活動を続けている。体を動かすレクリハはご利用者の反応も良く、中には「足があがるようになった」「歩きやすくなった」等の効果の声も上がってきている。

作業レクについては、今年度も地域との交流を図る一環として、岩屋地区やショッピングセンターの文化祭に参加したり、かかしコンテストに参加することができた。また、虹ヶ丘内でも文化祭を実施し、ご家族にも見に来ていただく機会を設けることができた。ご利用者の中には、新聞ちぎり絵や俳句など、こちらで始められたことを自宅でも趣味としてされる方も増えてきており、デイの活動が在宅での活動や楽しみに繋がっていることは、今年度の特徴といえる。

職員の資質向上については、利用時間が単に1時間延びただけでなく、ご利用者に満足していただけるデイサービスになるために、デイサービス係内でビジョンや行動指針の考案・活動内容の工夫等を行った。例えば外出はドライブだけでなく、行先で体操を行ったり、他施設とレクの交流を行う等、楽しみだけのドライブではなく、意味を持たせることができた。また、下半期には介護職員からレク等のプレゼンテーションを行い、自分で積極的に考え提案し実施に繋げていく足掛かりをつくっている。

25年度に向けては、ご利用者・ご家族向けにデイサービス独自のアンケートを実施し、多くの貴重なご意見を頂けたので、来年度に活かしていき、内容の充実を図っていきたい。

### 3 サービス実績の状況

	開所 日数	実人数	延利用			延利用 人数	1日 平均						
			介護	予防	障害		介護	予防	障害				
4月	30	105	91	13	1	653	558	93	2	21.8	18.6	3.1	0.1
5月	31	103	88	14	1	637	549	86	2	20.5	17.7	2.8	0.1
6月	30	103	87	15	1	629	530	95	4	21.0	17.7	3.2	0.1
7月	31	101	84	16	1	626	518	104	4	20.2	16.7	3.4	0.1
8月	31	99	83	15	1	645	540	102	3	20.8	17.4	3.3	0.1
9月	30	95	80	14	1	615	521	90	4	20.5	17.4	3.0	0.1
10月	31	101	84	16	1	693	580	109	4	22.4	18.7	3.5	0.1
11月	30	102	85	16	1	650	545	103	2	21.7	18.2	3.4	0.1
12月	31	98	79	18	1	631	508	119	4	20.4	16.4	3.8	0.1
1月	31	93	75	17	1	624	509	114	1	20.1	16.4	3.7	0.0
2月	28	94	76	18	0	584	481	103	0	20.9	17.2	3.7	0.0
3月	31	96	76	19	1	627	509	116	2	20.3	16.4	3.7	0.1
合計	365	1,190	988	191	11	7,614	6,348	1,234	32	20.9	17.4	3.4	0.1

### 4 サービス別利用実績

	機能 訓練	入浴	食事			時間 延長	時間 延長						
			介護	予防	障害		介護	予防	障害				
4月	402	684	588	94	2	645	550	93	2	0	0	0	0
5月	396	622	527	93	2	620	532	86	2	0	0	0	0
6月	407	608	509	95	4	617	518	95	4	0	0	0	0
7月	366	605	499	102	4	626	518	104	4	0	0	0	0
8月	367	628	523	102	3	638	533	102	3	0	0	0	0
9月	347	598	501	93	4	599	505	90	4	0	0	0	0
10月	395	670	560	106	4	679	566	109	4	0	0	0	0
11月	344	623	517	104	2	637	532	103	2	0	0	0	0
12月	254	589	479	106	4	624	501	119	4	0	0	0	0
1月	261	588	478	109	1	615	500	114	1	1	1	0	0
2月	47	547	449	98	0	571	468	103	0	1	1	0	0
3月	46	591	480	109	2	616	497	116	2	0	0	0	0
合計	3,632	7,353	6,110	1,211	32	7,487	6,220	1,234	32	2	2	0	0

※ 4月～1月は機能訓練Ⅰ，2月～3月は機能訓練Ⅱを算定

## 5 介護度別利用状況

(1) 介護度別 (3月度) 平均 2.1

項目	男性	女性	合計	構成比
要支援1	0	4	4	4.2%
要支援2	2	13	15	15.8%
要介護Ⅰ	5	20	25	26.3%
要介護Ⅱ	5	18	23	24.2%
要介護Ⅲ	5	8	13	13.7%
要介護Ⅳ	2	3	5	5.3%
要介護Ⅴ	2	8	10	10.5%
合計	21	74	95	100.0%

(2) 障害程度区分別 平均 6.0

項目	男性	女性	合計	構成比
区分1	0	0	0	0.0%
区分2	0	0	0	0.0%
区分3	0	0	0	0.0%
区分4	0	0	0	0.0%
区分5	0	0	0	0.0%
区分6	0	1	1	100.0%
合計	0	1	1	100.0%

## 6 年齢構成別利用状況

(1) 全体 (登録者)

	男性	女性	合計
-60	0	2	2
61-64	0	0	0
65-69	1	1	2
70-74	1	3	4
75-79	1	5	6
80-84	5	11	16
85-89	9	20	29
90-94	3	22	25
95-99	1	10	11
100-	0	1	1
合計	21	75	96
平均年齢	84.9	86.8	85.9
最高年齢	96	100	
最低年齢	68	57	

(2) 介護給付対象者 (登録者)

	男性	女性	合計
-60	0	1	1
61-64	0	0	0
65-69	1	1	2
70-74	1	3	4
75-79	0	4	4
80-84	5	8	13
85-89	9	15	24
90-94	2	16	18
95-99	1	8	9
100-	0	1	1
合計	19	57	76
平均年齢	85.2	86.9	86.1
最高年齢	96	100	
最低年齢	68	60	

## (3) 予防給付対象者（登録者）

	男 性	女 性	合 計
－ 6 0	0	0	0
6 1－6 4	0	0	0
6 5－6 9	0	0	0
7 0－7 4	0	0	0
7 5－7 9	1	1	2
8 0－8 4	0	3	3
8 5－8 9	0	5	5
9 0－9 4	1	6	7
9 5－9 9	0	2	2
1 0 0－	0	0	0
合 計	2	17	19
平均年齢	82.5	88.3	85.4
最高年齢	90	98	
最低年齢	75	76	

## (4) 自立支援法対象者（登録者）

	男 性	女 性	合 計
－ 6 0	0	1	1
6 1－6 4	0	0	0
6 5－6 9	0	0	0
7 0－7 4	0	0	0
7 5－7 9	0	0	0
8 0－8 4	0	0	0
8 5－8 9	0	0	0
9 0－9 4	0	0	0
9 5－9 9	0	0	0
1 0 0－	0	0	0
合 計	0	1	1
平均年齢	－	57.0	57.0
最高年齢	－	57	
最低年齢	－	57	

## 7 高齢者介護者教室

月 日	内 容	参加者数	会 場
3月28日	介護者同士の交流	7名	虹ヶ丘

## 8 月次行事

月	行 事 名
4月	花見(鳴滝山・板列神社・雲岩公園・獅子崎等)・貼り絵
5月	芝桜花見(福知山)・藤花見(和田山)・福知山動物園外出(福知山)・手打ちそば・貼り絵
6月	ドライブ(成相寺・小町公園等)映画鑑賞と外食(峰山)・お好み焼き作り・お花紙丸め・買い物レク
7月	ドライブ(一字観公園・岩滝等)・外食(ウイル)・シーフードカレー作り・かかし作り
8月	ひまわり&かかし見学(わーくぱる)・夏祭り週間・かかし作り・壁画作り
9月	運動会見学(岩屋小学校)・外食と買い物(峰山)ドライブ(府中・大内峠等)・壁画作り
10月	五老ヶ岳遠足(舞鶴)・天橋の郷との交流会(天橋の郷)・ドライブ(府中・岩滝等)・お花紙丸め
11月	ウイル、岩屋、虹ヶ丘内文化祭出展(ウイル・岩屋公民館・虹ヶ丘内)・もみじ見学(大内峠・安国寺)・貼り絵
12月	クリスマス週間・お花紙丸め(七福神)・ビーズアクセサリー作り
1月	初詣(後藤神社・一宮神社)・鍋(施設内)・貼り絵
2月	バレンタインケーキ週間(施設内)・ちらし寿司作り(施設内)・貼り絵
3月	家族交流会・おはぎ作り(施設内)・貼り絵

## 9 職員の研修参加

### (1) 内部研修

月別	内 容	講 師	実人数	日数
4	コンプライアンス研修会	施設長	17	3
	リハビリ勉強会(基本介護技術Ⅰ)初級編	神内PT	3	1
5	普通救命講習会	宮津与謝消防組合	5	2
	第1回TV会議システムを活用した認知症セミナー	成本迅氏	2	1
	リハビリ勉強会(基本介護技術Ⅱ)	神内PT	3	1
	車輦事故の事例検討	デイサービス	17	1
6	第1回感染症勉強会	感染症委員	1	1
	認知症勉強会	キャラバンメイト委員	7	1
7	第1回リスクマネジメント勉強会	リスクマネジメント委員	1	1
	医療的ケアフォローアップ研修	看護師	1	1
	第2回TV会議システムを活用した認知症セミナー	成本迅氏・西邑章氏	3	1
	リハビリ勉強会	神内PT	4	1
8	褥瘡予防対策委員会指針発表・褥瘡予防について講義	褥瘡予防対策委員・神内PT	1	1
	医療的ケア研修会	看護師	1	1
	第1回リスクマネジメント勉強会②	リスクマネジメント委員	1	1
	ユニットin北京都 全体研修会	桑原教彰氏	1	1
9	リハビリ勉強会(基本介護技術)	神内PT	2	1
	第3回TV会議システムを活用した認知症セミナー	宮裕昭氏	5	1
	リハビリ勉強会(腰痛予防勉強会)	神内PT	2	1
	排泄勉強会	オムツフィッター3級取得者職員	2	1
	陽信孝先生特別講演会	陽信孝氏	8	1
11	ユニットin北京都 全体研修会	春日キスヨ氏	1	1
	ターミナル勉強会(陽信孝氏講演会ビデオ鑑賞会)		3	2
	第4回TV会議システムを活用した認知症セミナー	成本迅氏	2	1
	リハビリ勉強会(摂食・嚥下勉強会)	神内PT	1	1
	医療的ケア研修会	看護師	11	1
12	第2回感染症勉強会①	感染症委員	1	1
1	リハビリ勉強会(モジュール型車椅子について)	神内PT	2	1
	和田行男氏講演会DVD視聴会		2	1
2	第2回リスクマネジメント勉強会	リスクマネジメント委員会	15	2
3	第6回テレビシステムを活用した認知症セミナー	成本迅氏・井上具美子氏	1	1
	リハビリ勉強会(高齢者の骨折・関節症について)	神内PT	3	1

### (2) 派遣研修

研 修 名	主 催	実人数	日数
運動器機能向上訓練の見学		2	1
摂食・嚥下障害を基礎から学ぶ	京都府リハビリテーション支援センター	1	1
甲種防火管理新規講習	宮津与謝消防組合	1	2
食べる機能の障害と摂食アプローチについて	丹後保健所	1	1
認知症介護初任者研修	府老協	1	1
キャラバンメイト養成研修	中丹広域振興局他	2	1
認定看護師から学ぶ褥瘡予防の基本と局所管理	京都府看護協会	1	1
虐待防止フォーラム	与謝野町	1	1
職員感染予防対策研修会	丹後保健所	2	1
デイ運営改善セミナー	日本通所ケア研究会	1	1
日本通所ケア研修会 認知症ケア研修会	日本通所ケア研究会	2	2
認知症ケアネットワーク研修	丹後保健所	1	1
喀痰吸引研修 指導看護師へのオリエンテーション	京都府看護協会	1	1
大規模通所事業所運営・経営セミナー「夢のみずうみ村方式」の学習塾	夢のみずうみ村	1	2

## 平成24年度 虹ヶ丘在宅介護支援センター 事業報告書

### 1 総括

24年度は、職員体制の変更で管理職業務が増大したことが影響し、23年度に比べて居宅介護支援件数は1622→1508件と、約10件/月減少した。しかし、初回加算は26件→55件と大幅に増加、医療連携加算は減少して、退院退所加算33→51件が増加していることを勘案すると、新規利用者の相談対応に追われた1年間だったことが、これらの数字からうかがえる。これまで経験したことのないペースで来られる新規利用者への対応は、機械的な対応とならないように心がけたつもりではあるが、上半期は報酬改定の解釈に時間をとられ、下半期は近隣の複数の特養開設に伴う入所系施設の出入りの激しさに翻弄され、ご利用者やご家族からすると、十分に満足していただけなかったかもしれないという心苦しさも一部残された。

そうした中でも、係内の5人全員がキャラバンメイト養成研修を修了し、年度中1人1回以上はサポーター養成研修の開催に協力できたことや、京都在宅介護支援センター協議会の役を引き受けたことで、ブロック会議や研修会の開催など、昨年までにはない活動も忙しい合い間を縫って取り組むことができた。また、災害時や急変時にリスクの高い一人暮らし世帯に対して、非常時には担当ケアマネジャーでなくとも駆けつけて、応分の対応ができるよう必要な情報を備えおくようマニュアル化したことも、今年度の取り組みの成果であると思われる。

また、法人内に新施設が開設されたことに起因する職員異動によって、4年ぶりに新しいスタッフを迎え入れたことも大きな出来事であった。上半期に、3人目の主任介護支援専門員が誕生したこともあり、ケアマネジャーの守備範囲や業務の優先順位等を整理しながら新職員の育成に努めた。既存の職員にとっても、制度や施策について、また、ケアマネジメント手順や社会資源等を再確認することができたことは、次年度に向けてもプラスの材料になったと思われる。

次年度は、町内の要介護高齢者にとって、入所系施設という選択肢の占めるウェイトが、ますます増大することが予想される。在宅での介護は、家族介護を前提として、その不足分を介護サービスが埋めるという制度設計となっているため、ややもすると家族の犠牲の上に在宅生活が成立しているケースも少なくない。入所系施設への門戸は大きくなったが、住み慣れた自宅で暮らし続けるために、介護保険制度施行時に言われた介護の社会化を軸として、そこに家族による精神的支援や地域の見守り等の付加価値が加わる形を目指すために、内外への取り組みを一層強化するように努めたい。

### 2 居宅介護支援・介護予防支援

#### (1) 件数の推移

	居宅介護支援										
	件数	初回加算	入院時 連携加算 Ⅰ	入院時 連携加算 Ⅱ	退院退 所加算	認知症 加算	独居高 齢者加 算	小規模多 機能型連 携加算	運営基 準減算 Ⅰ	運営基 準減算 Ⅱ	特定事 業所加 算Ⅱ
4月	131	2	2	1	6	40	12	0	0	0	131
5月	129	2	4	0	2	39	12	0	0	0	129
6月	124	3	1	0	2	36	11	0	0	0	124
7月	123	5	6	2	1	36	11	0	0	0	123
8月	123	6	2	1	2	36	13	0	0	0	123
9月	124	2	4	0	5	35	13	0	0	0	124
10月	126	10	4	0	1	39	13	0	0	0	126
11月	128	8	0	2	0	39	15	1	0	0	128
12月	124	3	3	1	9	36	15	0	0	0	124
1月	122	3	2	1	3	40	15	0	0	0	122
2月	123	5	3	1	3	38	13	0	0	0	123
3月	131	6	0	1	7	39	12	0	0	0	131
合計	1,508	55	31	10	41	453	155	1	0	0	1,508

	介護予防支援		
	件数	初回加算	小規模多機能型連携加算
4月	0	0	0
5月	0	0	0
6月	0	0	0
7月	0	0	0
8月	0	0	0
9月	0	0	0
10月	0	0	0
11月	0	0	0
12月	0	0	0
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0
合計	0	0	0

(2) 居宅介護内容別・経路別実績

相談区分	件数	実人数
介護保険認定関係	125	63
医療健康相談	1,746	168
デイサービス利用	1,338	151
ホームヘルプ利用	757	90
訪問入浴	27	4
ショートステイ利用	778	105
訪問看護利用	266	42
施設入所関係	254	66
住宅改修・福祉用具	634	107
介護保険以外のサービス	39	24
認知症に関する相談	361	82
家族介護に係る相談	146	56
他サービス利用	42	18
その他	141	61
合計	6,654	1,037

区分	電話	来所	訪問	文書	その他	合計
本人	157	31	1,978	3	34	2,203
家族	872	65	1,783	7	22	2,749
関係機関	931	52	785	41	67	1,876
相談協力員	3	2	3	0	0	8
その他	24	1	39	6	1	71
合計	1,987	151	4,588	57	124	6,907



### 3 在宅介護支援センター事業内容別・経路別実績

相談区分	件数	実人数
介護保険認定関係	47	28
医療健康相談	156	55
デイサービス利用	86	43
ホームヘルプ利用	38	21
訪問入浴	1	1
ショートステイ利用	48	19
訪問看護利用	11	4
施設入所関係	102	38
住宅改修・福祉用具	53	25
介護保険以外のサービス	6	6
認知症に関する相談	57	31
家族介護に係る相談	10	4
他サービス利用	6	6
虐待に関する相談	0	0
権利擁護に係る相談	0	0
その他	25	17
合計	646	298

区分	電話	来所	訪問	文書	その他	合計
本人	4	2	71	0	2	79
家族	117	23	95	0	5	240
関係機関	150	6	52	2	9	219
相談協力員	7	1	3	0	0	11
その他	6	1	0	0	0	7
合計	284	33	221	2	16	556

### 4 諸会議

会議名	主催者	延べ日数
与謝野町地域ケア会議	与謝野町	3
宮津・与謝グループ会議	京都府在介協	1
与謝野町キャラバンメイトコアメンバー会議	与謝野町福祉課	2
与謝野町自立支援協議会地域生活活動支援部会	与謝野町福祉課	8
与謝野町地域密着運営協議会	与謝野町福祉課	1
与謝野町地域包括支援センター協議会	与謝野町福祉課	1
与謝野町ケアマネ連絡会	与謝野町ケアマネ連絡会	2

### 5 職員の研修参加

#### (1) 内部研修

月別	内容	講師	実人数	日数
4	施設内虐待とコンプライアンスルール①②	施設長	4	2
5	普通救命講習会 I ①②	宮津与謝消防組合	1	1
	施設内虐待とコンプライアンスルール③	施設長	1	1
6	第1回TV会議システムを活用した認知症セミナー	成本迅氏	1	1
	第1回感染症勉強会	感染症委員	2	2
7	認知症勉強会	キャラバンメイト委員	5	1
	第2回TV会議システムを活用した認知症セミナー	成本迅氏・西邑章氏	2	1

8	ユニットin北京都 全体研修会	西川勝氏	4	1
9	第3回TV会議システムを活用した認知症セミナー	宮裕昭氏	2	1
	陽信孝先生特別講演会	陽信孝氏	4	1
10	ユニットin北京都 全体研修会	浜田寿美男氏	2	1
11	ユニットin北京都 全体研修会	春日キスヨ氏	1	1
	第4回TV会議システムを活用した認知症セミナー	成本迅氏	1	1
1	リハビリ勉強会(モジュール型車椅子について)	神内PT	2	1
	和田行男氏講演会DVD視聴会		2	2
	第5回TV会議システムを活用した認知症セミナー	成本迅氏・西邑章氏	2	1
2	ユニットin北京都 全体研修会	武田和典氏	2	1
	第2回リスクマネジメント勉強会	リスクマネジメント委員	3	2
3	第6回テレビシステムを活用した認知症セミナー	成本迅氏・井上具美子氏	1	1
	リハビリ勉強会(高齢者の骨折・関節症について)	神内PT	2	1

## (2) 派遣研修

研修名	主催	実人数	日数
介護保険サービス事業者等集団指導	京都府	1	1
難病患者従事者研修会	丹後保健所	2	2
キャラバンメイトコアメンバー会議	与謝野町福祉課	1	1
キャラバンメイト全体会	与謝野町福祉課	1	1
主任介護支援専門員研修	京都府	1	10
夏の認知症セミナー	丹後保健所	3	1
キャラバンメイト養成研修	中丹広域振興局他	3	1
虐待防止フォーラム	与謝野町	2	1
障害者虐待防止権利擁護研修	京都府	1	1
事例検討会	与謝野町地域包括支援センター	4	2
認知症ケアネットワーク研修	丹後保健所	2	1
思い出つくりVTR制作説明会	ユニットin北京都	1	1
地域包括・在宅介護支援センター協議会 宮津・与謝丹後グループ研修会	京都府地域包括・在宅介護支援センター協議会	5	1
地域包括ケア研修会 介護支援専門員の役割とは	日本介護支援専門員会	1	1
老人福祉施設等職員研修	府老協・府在介協	1	1
相手の行動や能力を引き出すコミュニケーションリハビリの実践報告	丹後地域リハビリテーション支援センター	1	1
多職種協働で丹後の地域医療連携を進めるシンポジウム	丹後地域保健医療協議会	1	1
ミニ事例検討会	与謝野町地域包括支援センター	3	1
リハビリテーションマインド実践のために	京都府	1	1
ミニ事例検討会	与謝野町地域包括支援センター	3	1
リハビリテーションマインド実践のために	京都府	1	1

## 平成24年度 虹ヶ丘ホームヘルプステーション 事業報告書

### 1 総括

24年度は年度中期から後期にかけてご利用者の人数が今までになく減少した。その背景には独居生活が厳しくなり遠方の家族との同居を決断された方、また老健へ入所された方、体調の変化によって入院された方、また体調が安定したための利用回数減、毎日型のご利用者の死亡終結等がある。老健に入所される直前には独居生活が困難となり訪問介護を頻回に利用していただくことも少なくなく、入所と同時に件数が激減する傾向が見られる。

年度当初には、ケアハウスで介護度が重度となり、サービスを多く利用しないと生活が成り立たない状況の方があり、当事業所だけではサービス量が成り立たず、他事業所と併用して支援したケースがあった。他事業所と一緒に対応する支援は最近少ないが、お互いの支援の相談や事業所内だけでしていた申し送りなどを事業所を越えて行なうことは良い緊張感にもつながった。家庭環境の事情からひとつの事業所で成立しにくい支援も数箇所の事業所が調整をすることで生活が成り立ち、また事業所としてのメリットもあるということが改めて感じられた。

身体介護には服薬確認の支援があることが多い。人それぞれプライドもあるため、服薬を確認するという支援の困難さを感じ、実際時間内には服薬していただけないことが多々あり、数名の方に対し緊急加算をつけて追加で訪問することが1年を通して10件程あった。服薬することで体調が安定し現状維持でき、一人暮らしを続けていただくことの意味合いは大きいと感じながら支援している。

病気から施設系サービスが利用困難となり、ご家族の介護負担も増すことで訪問介護が対応することが毎年少なからずある。最期を家族で看てやりたいという気持ちに寄り添えるよう柔軟な対応を心掛けている。昨年度、第三者との関わりが困難な方が訪問介護を受け入れて下さり、その後施設系サービスに結びつくことができたケースがあった。一旦、訪問介護は終えたわけだが、その後にご家庭の事情で訪問介護を希望され対応したことがあった。以前の関わりがあることでご家族から依頼があったことはとても光栄なことでこのようにご家族の安心となるような緊急な対応も引き続き受け入れていきたいと思う。

年度当初に対応した二人派遣については、精神疾患をもったご家族の暴言が強く行動にも危険を感じる状況で、一人での訪問ではご利用者の支援が対応できないと判断し、行政を含む関係機関で相談を重ね、二人派遣での対応となった。このようなケースは初めてではあったが、家族環境が影響しご利用者に必要な援助ができない場合のヘルパーの訪問形態については、できる限りどのようなことが可能なのかわちの思いも伝えていながらケアマネジャーとの相談を深めていきたい。

職員体制については退職等や人事異動で入れ替わりがあった。今年度のような利用者状況に大きな変化があることを考えると、非常勤ヘルパー（登録ヘルパー）の重要性を強く感じる。ご利用者の人数増減は常にあることなので、非常勤ヘルパーの体制を安定的に維持できることが訪問介護事業所としては望ましいのではないかと強く感じる。一年を通し苦情もお受けすることがあった。ご利用者を理解し、その方にあった対応を心がけることが職員の責務でもあるため、苦情をお受けすることはとても残念ではあったが、苦情とは訪問してから起こることばかりではなく、スケジュールを組む段階で、回避できることもあるのではないかと感じることもあった。今後の課題としていきたいと思っている。

自立支援法下のサービスについては、秋に1名ご利用者が増えた。60代前半という介護保険に移行する目前の方でもあったため、虹ヶ丘事業所を希望された経過でもある。高齢者への支援と異なり、体調的な変化をきたす方は少なく、どのご利用者も長く利用していただいている。体調に大きな変化はない状況ではあるが安定した日々を過ごしていただけるよう、少し先を見据えながらの支援、対応も大切なことだと感じながら関わっていききたいと思っている。

### 2 利用者状況

(1)要介護度別 3月度 平均 2.2

	男性	女性	合計	構成比
要支援Ⅰ	0	1	1	2.4%
要支援Ⅱ	1	6	7	16.7%
要介護Ⅰ	3	6	9	21.4%
要介護Ⅱ	3	8	11	26.2%
要介護Ⅲ	2	4	6	14.3%
要介護Ⅳ	2	3	5	11.9%
要介護Ⅴ	1	2	3	7.1%
合計	12	30	42	100.0%

(2)障害程度区分別 3. 平均 3.5

	男性	女性	合計	構成比
区分1	0	0	0	0.0%
区分2	0	0	0	0.0%
区分3	2	1	3	75.0%
区分4	0	0	0	0.0%
区分5	0	1	1	25.0%
区分6	0	0	0	0.0%
合計	2	2	4	100.0%

## (3) 年齢別 3月度

	男性	女性	合計
—64	2	2	4
65—69	1	1	2
70—74	0	0	0
75—79	1	2	3
80—84	3	2	5
85—89	3	11	14
90—94	1	9	10
95—99	2	2	4
100—	1	3	4
合計	14	32	46
平均年齢	80.8	87	85.1
最高年齢	101	103	
最低年齢	51	49	

## (4) 介護給付

## 《利用延件数》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
身体1	233	194	165	162	167	162	172	157	169	157	204	196	2138
身体1・2人	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
身体2	63	74	70	80	73	76	84	88	67	72	67	81	895
身体3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
身体介護	304	268	235	242	240	238	257	245	236	229	271	277	3042
身1生1	58	49	57	58	49	53	52	41	39	40	39	42	577
身1生2	15	22	20	15	13	17	21	2	2	2	6	11	146
身1生3	8	9	9	8	9	9	9	9	9	9	8	9	105
身2生1	12	15	20	18	20	22	22	21	19	21	17	12	219
身2生2	5	3	0	1	0	0	4	4	5	4	4	4	34
身3生1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
身体生活	99	98	106	100	91	101	108	77	74	76	74	78	1082
生活2	73	66	66	78	83	78	76	78	80	76	72	79	905
生活3	66	60	50	47	41	36	33	36	35	34	34	35	507
生活援助	139	126	116	125	124	114	109	114	115	110	106	114	1412
計	542	492	457	467	455	453	474	436	425	415	451	469	5536
一人派遣	534	492	457	467	455	453	474	436	425	415	451	469	5528
二人派遣	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
計	542	492	457	467	455	453	474	436	425	415	451	469	5536
訪問時間	430:15	407:15	383:25	388:40	373:15	376:10	396:50	360:05	342:00	339:20	351:20	371:45	4520:20
訪問日数	452	432	405	411	391	389	404	371	360	350	361	384	4710
訪問回数	542	492	457	467	456	453	474	436	425	415	451	469	5537
初回訪問加算	2	1	1	2	1	1	0	2	1	0	3	2	16
緊急時加算	5	1	2	0	0	0	1	1	1	1	3	0	15

## 《利用実人数》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	年間実利用者
身体介護	25	24	21	25	22	19	21	19	18	18	22	21	255	36
生活援助	15	15	14	14	14	12	22	22	12	10	13	14	177	21
身体生活	13	11	13	12	12	13	22	11	9	9	9	9	143	17
計	53	50	48	51	48	44	65	52	39	37	44	44	575	74
一人派遣	41	39	36	37	37	36	34	33	29	29	32	34	417	52
二人派遣	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	42	39	36	37	37	36	34	33	29	29	32	34	418	53
実利用人数	41	39	36	37	37	36	34	33	29	29	32	34	417	52

(5) 予防給付  
《利用延件数》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防訪問介護Ⅰ	18	21	16	20	22	18	21	23	20	28	27	29	263
予防訪問介護Ⅱ	32	31	27	27	18	16	17	12	7	7	8	9	211
予防訪問介護Ⅲ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計訪問時間	52:00	51:35	42:25	45:00	40:00	33:25	37:20	35:00	27:00	34:35	35:00	38:00	471:20
合計件数	50	52	43	47	40	34	38	35	27	35	35	38	474

《利用実人数》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	年間実利用者
予防訪問介護Ⅰ	6	5	4	5	4	5	5	5	5	6	7	7	64	8
予防訪問介護Ⅱ	4	5	4	3	2	2	2	2	1	1	1	1	28	3
予防訪問介護Ⅲ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一人派遣	10	10	8	8	6	7	7	7	6	7	8	8	92	11
合計件数	10	10	8	8	6	7	7	7	6	7	8	8	92	11
初回訪問加算	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3	3

(6) 自立支援法

《利用延件数》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活援助中心型	16	19	17	17	15	14	19	20	21	22	20	21	221
身体介護中心型	36	37	36	38	32	31	39	36	32	30	34	33	414
合計訪問時間	36:30	39:30	38:00	38:30	35:00	33:30	41:00	40:00	39:30	38:30	39:00	40:00	459:00
合計件数	52	56	53	55	47	45	58	56	53	52	54	54	635

《利用実人数》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	年間実利用者
生活援助中心型	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	30	3
身体介護中心型	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	1
一人派遣	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	42	4
合計人数	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	42	4

3 職員の研修参加

(1) 内部研修

月別	内 容	講師	人数
4	施設内虐待とコンプライアンスルール①②	施設長	7
5	施設内虐待とコンプライアンスルール③	施設長	1
	第1回TV会議システムを活用した認知症セミナー	成本迅氏	2
6	『調理』 手ごろな食材を使ったスピードメニュー	ヘルパー	8
	第1回感染症勉強会	感染症委員	8
	認知症勉強会	キャラバンメイト委員	4
7	『技術』 非言語的コミュニケーションについて	ヘルパー	8
	リハビリ勉強会(シーティングと床面からの起上り介助法について)	神内PT	1
	第2回TV会議システムを活用した認知症セミナー	成本迅氏・西邑章氏	4
8	『緊急時対応』 ①初期消火と消火器の種類 ②緊急時の対応・援助の確認	ヘルパー	7
	ユニットin北京都 全体研修会	桑原教彰氏	1
	医療的ケア研修会	看護師	2
	第1回リスクマネジメント勉強会②	リスクマネジメント委員	1
9	『調理』 スピード調理	ヘルパー	6
	第3回TV会議システムを活用した認知症セミナー	宮裕昭氏	3
	排泄勉強会	オムツフッター3級取得者職員	4
	陽信孝先生特別講演会	陽信孝氏	5
	『感染症について』 食中毒と手洗い	ヘルパー	7

10	『技術』 記録の書き方について	ヘルパー	7
11	第4回TV会議システムを活用した認知症セミナー	成本迅氏	1
	『技術』 着脱介助、排泄介助	ヘルパー	6
1	和田行男氏講演会DVD視聴会		2
	第5回TV会議システムを活用した認知症セミナー	成本迅氏・西邑章氏	2
	『感染症について』 感染性胃腸炎、嘔吐、下痢について	ヘルパー	7
2	第2回リスクマネジメント勉強会	リスクマネジメント委員	7
	『調理』 旬の食材を調理する	ヘルパー	7
3	第6回テレビシステムを活用した認知症セミナー	成本迅氏・井上具美子氏	2
	リハビリ勉強会(高齢者の骨折・関節症について)	神内PT	4
	『技術』 事故対応について	ヘルパー	8

研 修 名	主 催	実人数	日数
障害者ホームヘルパー現任研修	京丹後市障害者自立支援協議会	1	1
難病患者等ホームヘルパー養成研修Ⅱ	京都社会福祉協議会	1	1
重度障害者意思伝達装置説明会	障害者地域生活支援センター「きらリンク」	1	1
相手の行動や能力を引き出すコミュニケーションリハビリの実践報告	丹後地域リハビリテーション支援センター	1	1

# 平成24年度 ふれあいホーム神宮寺 事業報告書

## 1 総括

23年度後半より登録者数の減少傾向が見られ、24年度が始まってその状況が続いた。特に入院と長期入所による利用中止のケースが多く、入院については短期間の入院ではなく、胃ろうの造設等を伴った長期的入院が多数見られたことが、登録者の減少に拍車をかけた要因であると感じる。神宮寺が開所して4年目を迎え、登録利用者の高齢化と重度化が顕著に表れており、登録利用者の入れ替わりが激しい一年であったと言える。

8月頃までは登録者数の減少が激しく、新規の相談も少ない状況が続いたため、登録利用者が20名を切る状況で推移し、運営的に厳しい期間が続いた。そのような状況の中で、少しでも登録者数の増加を図るために、複合的ニーズへの対応を視野に置いて障害がある方の受け入れを検討し、10月から自立支援法の基準該当施設となった。ただし、その頃から新規相談の件数が増え、実質的に定員に近い状況まで登録者数が増えたことと、指定を受けたものの利用の相談がなかったため、障害がある方の受け入れには至っていない。

登録者数については浮き沈みがあるものの、年度途中より新規の相談が増え後半より利用登録につながっている。特に一昨年より実施している、あんしん見守り事業（地域支援体制強化事業）の活動より、民生委員等、地域からの相談件数が増え、そのケースが登録につながるといった事例が多くみられた。そのため新規の登録者については全て石川区に居住する高齢者であり、登録のほぼ9割が石川区の高齢者で占めるまでに至っている。

石川区の登録者が増えることは、地域の中で事業所が認知され、また相談がしやすいと感じていただいた結果であると思う反面、今年度のように登録者が減少した際に、なかなか他の地域からの相談が入りにくい状況であるとも考えられる。石川区での様々な活動を中心にしつつも、他地域への情報発信やアピールを今後増やすなど、事業所の安定運営に向けた活動が必要であると感じる。

## 2 活動の状況

登録者数の推移はあったものの、通いの平均数については年間を通してそれほど変動無く推移している。その反面、訪問については新規登録が増え始めた9月頃より激増。平均して一日に10件超の訪問を実施することとなった。登録利用者によって訪問のニーズと回数は変わるが、自宅での支援を中心に据えて援助を行った結果であると感じる。ただし、訪問回数増に伴う職員の出入りの激しさと、車輛・人員の確保が大変厳しい曜日があったことも事実である。また、泊まりについては年間を通して利用実人数、利用総数ともに横ばいの状況となっている。一泊程度の泊まり利用が中心であり、長期間の泊まりニーズが少ないため、このような状況となっている。

登録者の状況については、開所より4年目を迎え、開所当初からの利用者についても重度化と高齢化が進みつつある。要支援の利用者も数名おられるために平均すると大幅な増加にはならないが、要介護1・2の利用者が減少傾向にあり、要介護3～の利用者が半数近い状況となっている。結果として、車椅子使用、エアマット使用、医療行為を要する場面の増加も見られており、福祉用具の活用と訪問看護・医療連携の必要性が更に増した一年となった。ターミナルケアを実施した訳ではないが、今後も登録利用者の高齢化・重度化の傾向は続くと思えるために、ターミナルと重度化に向けた考え方、事業所としての方針を検討していかなければならないと感じる。

そのような利用者の状態変化に併せ、23年度末よりケアプラン様式の変更を実施。24年度については本格的な運用を開始した。担当職員とケアマネジャーがプランについて確認し、より現実的な、必要性の高い本人ニーズを探ることと、実現可能なプランを目指して内容を確認している。プランの変更については大きな混乱なく実施できており、今後はより実用的に運用できることが目標である。利用者の望む生活の実現と併せ、個人のニーズに沿った援助の内容を考え、小規模多機能の柔軟性を活かしつつ、さまざまな支援ができるよう、事業所として取り組みたいと考えている。

利用者個々への支援とともに、全体としての外出の実施や過ごし方の工夫も併せて検討したい。登録者や訪問の状況が落ち着けば、外出等の行事が実施しやすい現状でもあるが、コンスタントに、出勤者が利用者の意向を確認しつつ、その時にあった楽しみの提供が実施できるよう職員のスキルアップにも努めたい。

大きな活動としては、定例となっている餅つきやそうめん流し、花見などの外出やあわしま祭りなどの行事を実施することもできた。特にあわしま祭りや餅つきでは、地域の方と交流しつつ石川うどんなどの振る舞いが実施できたことは大きな成果であると感じる。25年度については、地域との連携はもちろん、そこにご家族も絡めながら交流や行事を企画したい。

地域支援については、活動を深める一年となった。訪問・見守り活動・サロン活動・相談活動それぞれにおいて、23年度からの活動を継続しつつ、より内容を深めることができたと感じている。当初より活動を続けていくことが力になると信じて取り組んできたが、地域の中に少しずつだが浸透した。特に、丁寧に訪問活動を継続してきた結果、独居・高齢世帯等の要援護高齢者の台帳が整備できたことと、地域からの相談件数が着実に増加してきたことから、石川地区の中での認知が進んだと実感している。また地域高齢者の支援だけでなく、6月には認知症について考える会を石川公民館にて開催。25年1月（排泄介助について）と3月（認知症について）には地域向けの勉強会を開催した。地域への情報発信とともに、事業所のもっている知識・技術などを地域へ還元し、老いても暮らしやすい街となるように地域貢献を行いたいと考えている。

ご家族に対する支援として12月に家族会を開催した。ご家族それぞれがさまざまな介護に対する悩みをもっておられ、我々が思いを聞く場として、またご家族同士が繋がりをもち、一緒に悩みを共有し相談できる場として、更なる家族支援の形を考えていきたい。事業所だけが、ご家族だけが負担を負っても介護は続かない。神宮寺が掲げるいつまでも住み慣れた地域・自宅で暮らしを続けて頂くために、共に協力しながら歩んでいきたい。25年度に向けて大きなテーマと考えている。



### 3 利用状況

#### (1) 月次状況推移

	登録者数	平均介護度	1日当り通所数	1日当り訪問数	宿泊延べ数	1人当りサービス提供回数(週)
4月	22	2.43	8.0	9.7	27	6.0
5月	22	2.30	9.3	7.2	33	6.0
6月	19	2.03	8.1	5.1	18	5.5
7月	18	1.97	7.8	5.0	19	5.2
8月	18	1.91	8.1	3.4	26	5.0
9月	20	2.24	7.9	8.2	24	6.5
10月	20	2.17	8.2	9.2	23	6.8
11月	23	2.23	8.8	11.1	21	6.8
12月	23	2.27	8.8	12.1	29	6.9
1月	23	2.25	8.8	11.7	23	6.8
2月	22	2.26	8.8	11.4	24	6.8
3月	21	2.29	8.3	7.3	23	6.0
年間平均	20.9	2.20	8.4	8.5	24.2	6.2

#### (2) 登録状況

	登録者数	登録中止者数	月末時点登録者数	利用中止理由
4月	2	1	21	入院 1
5月	1	5	17	老健 2、長期入所 1、居宅変更 1、入院 1
6月	2	2	17	利用中止 1、入院 1
7月	1	1	17	入院 1
8月	2	2	17	老健 1、長期入所 1
9月	3	1	19	長期入所 1
10月	1	1	19	入院 1
11月	4	1	22	入院 1
12月	1	1	22	居宅変更 1
1月	1	1	22	居宅変更 1 (転居)
2月	0	2	20	老健 1、入院 1
3月	1	2	19	入院 2
合計	19	20		

## (3) 年齢別状況 (3月度)

年齢	男性	女性	合計
64以下	0	1	1
65～69	0	0	0
70～74	1	1	2
75～79	0	0	0
80～84	0	1	1
85～89	1	8	9
90～94	1	6	7
95～99	0	1	1
100以上	0	0	0
合計	3	18	21
平均年齢	82.6	86.8	86.2

## (4) 介護度別状況 (3月度) 平均 2.3

介護度	男性	女性	合計	構成比
要支援1	0	2	2	10.0%
要支援2	0	1	1	5.0%
要介護Ⅰ	1	3	4	20.0%
要介護Ⅱ	0	4	4	20.0%
要介護Ⅲ	1	4	5	25.0%
要介護Ⅳ	1	2	3	15.0%
要介護Ⅴ	0	1	1	5.0%
合計	3	17	20	100.0%

※区分変更申請中1名あり

## 4 月次行事

月	行事
4月	お花見・加悦谷祭り
5月	石川小運動会見学・お弁当外出
6月	畑作業・あけぼの会清掃・石川区フォーラム 神宮寺新聞6号
7月	あわしま祭り
8月	流しそうめん・神宮寺新聞7号
9月	ドライブ・畑作業
10月	外食・保育所訪問・石川小認知症サポーター養成 講座
11月	石川区文化祭・紅葉狩り
12月	クリスマス・忘年会・家族交流会
1月	新年祝賀・初詣・地域向け勉強会
2月	節分・石川小交流会・保育所交流・神宮寺新聞8号
3月	ドライブ・畑作業・地域向け勉強会

## 5 職員研修

### (1) 内部研修

月	内容	講師	人数
4月	施設内虐待とコンプライアンスルール① ② リハビリ勉強会(基本介護技術Ⅰ)初級編	施設長 神内P T	6 2
5月	普通救命講習会Ⅰ①② 施設内虐待とコンプライアンスルール③ 第1回TV会議システムを活用した認知症 セミナー リハビリ勉強会(基本介護技術Ⅱ)	宮津与謝消防組合 施設長 成本迅氏  神内P T	3 4 5 2
6月	第1回感染症勉強会 認知症勉強会 普通救命講習会Ⅰ③	感染症委員会 キャラバンメイト委員会 宮津市消防組合	12 7 1
7月	第1回リスクマネジメント勉強会① リハビリ勉強会(シーティングと床面から の起上り介助法について) 第2回TV会議システムを活用した認知症 セミナー	リスクマネジメント委員会 神内P T  成本迅氏・西邑章氏	1 1 8
8月	ユニットin北京都 全体研修会 褥瘡予防対策委員会指針発表・褥瘡予防 について講義 第1回リスクマネジメント勉強会②	桑原教彰氏 褥瘡予防対策委員・神内PT  リスクマネジメント委員	1 7 1
9月	ユニットin北京都 全体研修会 第3回TV会議システムを活用した認知症 セミナー 排泄勉強会 陽信孝先生特別講演会	西川勝氏 宮裕昭氏  オムツフィッター3級取得職 員 陽信孝氏	3 5 4 7
10月	ユニットin北京都全体研修会	浜田寿美男氏	3
11月	ユニットin北京都全体研修会 第4回TV会議システムを活用した認知 症セミナー	春日キスヨ氏 成本迅氏	2 2
12月	第2回感染症勉強会①	感染症委員会	1
1月	和田行男氏講演会DVD視聴会 第5回TV会議システムを活用した認知症 セミナー	成本迅氏・西邑章氏	2
2月	ユニットin北京都全体研修会 第2回リスクマネジメント勉強会	武田和典氏 リスクマネジメント委員会	4 8
3月	第6回TVシステムを活用した認知症セ ミナー リハビリ勉強会(高齢者の骨折・関節症 について)	成本迅氏・井上具美子氏  神内P T	3 4

### (2) 派遣研修

研修名	主催	実人数	日数
小規模多機能事業所 介護士交流会		1	1
小規模多機能職員研修		1	1
与謝郡小規模連絡会議	与謝野町	6	3
事例検討会	町地域包括支援センター	2	1
第2回地域密着ケア全国研修会	日本通所ケア研究会	2	2
職員感染予防対策研修会	丹後保健所	2	1
認知症ケアネットワーク研修	丹後保健所	1	1
小規模多機能ケア全国セミナー	小規模多機能ホーム研究会他	1	2